

# 観光するにも「不 便 益」

京都先端科学大学

川上 浩司

不  
便  
益（不便だから良いんだよ）とい  
う話を続けています。先月は、制約があ  
るといふのは不便なようだが、だからこ  
そ良いのだよという話をしました。「遠  
足のオヤツは三百円まで」という制約の  
おかげで、今でも小学生の時の遠足は思  
い出深いです。これは、皆さんのアルアル  
ではないでしょうか。小学生といえば、  
下校の時に普通に道を歩けば良いのに、

「そうだ、今日は白い線の上だけを辿っ  
て家まで帰れるかチャレンジしてみよ  
う」などと思いい立ち、白線が切れて途方  
にくれそうになったら「いや、アスファ

ルト以外なら黒くないからギリセーフ」  
などとマイルールを発動してコンクリー  
トの上もOKにする。これなども、皆さ  
んに聞いてみるとアルアルのようです。  
「白線の上だけ制約」というのは、下校  
を楽しくさせるといふ益を与えてくれる  
ようです。

このような制約という不便が益をもた  
らす事例をたくさん集め、それらを並べ  
て学生に見せてインプットさせ、「じゃあ  
今度はアウトプット、制約が益をもたら  
す新しいモノゴトを編み出してみよう

か、そうだなあ、お題は『観光』で」と  
いうデザイン演習をしたことがありま  
す。さすが柔らかな頭の大学生、面白いア  
イデアがたくさん出ました。その中の一  
つに「京都、左折オンリーツアー」があ  
ります。京都市の街路が碁盤目状である  
ことを知っている者としては、もう名前  
を聞いただけでどんなツアーか想像がつ  
きますし、きつと面白いだろうことも想  
像がつかめます。学生の一人がこのツア  
ーを思いついた時、他の学生からもどよめ  
きがありました。

京都観光は、便利なツアーバスに乗っ  
て効率的に無駄なくできるだけ多く有名  
な観光地を巡るという従来パターンも根  
強く残っています。それ以外にも街歩  
きを楽しみながら目的地までゆっくりと  
いうパターンが、ここ数十年は右肩上が

りのようです。この流れは、微妙に不便  
益を先取りされたような気もしてちょっ  
と悔しいのですが、「京都、左折オンリー  
ツアー」は、更にエキセントリックに不  
便益的要素を加えてくれるアイデアです。  
街歩きを楽しみながら目的地までゆっく  
り、というコンセプトは変わりません。  
ただ、そこに「左折しかできない」とい  
う、まるで「白線の上しか歩けない」的  
なマイルールを加えるわけです。楽しそ  
うでしょうか？

このアイデアは、京都ならではの〴〵と  
いう点でも秀逸です。この交差点を右折  
すれば目的地が見えているのに左折縛り  
かあ、という状況でも大丈夫。碁盤目状  
の街路ですから、その交差点を直進で通  
り越し、次の交差点左折を三回繰り返せ  
ば右折と同じことになります。右折でき

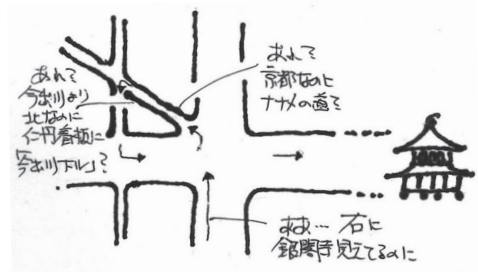
れば便利なのに、直進+左折+左折+左折では手間がかかり不便です。ただ、ここにも古い街だからこそがあります。そのようにして入り込まざるを得なかった(観光ガイドにも載っていない) 細い街路にも、古くからの歴史が埋め込まれているのが発見できます。また、街歩きツアーの魅力を増し増しにするという点でも秀逸です。街歩きの楽しみといえば、観光ガイドにも載っていない、現地に行かねば出会えない発見なのですから。

このように考えると、このツアーは絶対売れるに違いありません。「ことぶら」という、京都でユニークなイベント(ツアーも含む)を企画しているところで、「京都、左折オンリーツアー」の参加者を募集してもらいました。ことぶらさんは、「京都ルーレットツアー」とか「本

費一六〇〇円支払わなくても、友達と『左折だけで行こうね』と申し合わせればいいので」と考えたそうです。それはそうですよね。アイデアとしては面白いけどビジネスとしては成立しませんでした。ただし、今なら(二〇二二年現在)、皆さんがGPS機能のついたスマホを携帯してくれています。これを使って、「ちゃんと出発点から目的地まで左折だけで行きましたよ」という地図と日付を付けた証明書を発行することとで、一六〇〇円が取れるビジネスになるかも知れません。旅の思い出に一六〇〇円、いかがですか？

元々は、今月号に關しては左折オンリーツアーだけでなく、観光は本来不便益をゲットするもの、京都市の5K会(Kyoto Kokusai Kankei Kasseika

能寺の変の行軍を再現するツアー」とかが人気で、私は前々から不便益の確信犯に違いないと目をつけていました。期待と不安を同居させながら左折オンリーツアー参加応募の人数が増えるのをモニターしていたのですが、結果はまさかの応募ゼロ。やはり不便は受け入れられないのでしょうか。



実は、そうでもないようです。漏れ聞くところによると、参加を思いとどまった人たちは「なにもことぶらさんに参加

Kyougikai)にも不便益を注目してもらっていること、京都嵐山の温泉宿は崖と川に挟まれて不便だけど人気、三年ぶりの祇園祭は人出が多くてぐったり、など、京都観光に関連するものだけでも書きたいことがどつさりありました。また、ページ数が足りないようです。また、いつかの機会に。楽をしたいなら出かけなければいいのに、楽しいことは楽をすることの反対側にあるようです。

川上浩司(かわかみひろし)

一九六四年生まれ。京都大学工学部、同工学研究科修了。京都大学助教授・特定教授などを経て京都先端科学大学工学部教授。不便益の研究で学会論文賞・出版賞多数。著書『不便益の文化』(二〇一七)など多数。